



# 第82号

●主な記事

令和4年度同窓会総会開催  
支部・同期会・OB会日より  
母校近況・寄贈図書

令和4年12月26日発行  
一般社団法人 長野高等学校金鷄会  
事務局 ☎(026)235-3822  
発行人 山口 利幸  
編集人 原 良通  
.....  
URL  
<http://www.kinshi.org>  
E-Mail  
[dousoukai@kinshi.org](mailto:dousoukai@kinshi.org)

## 会長就任ご挨拶



同窓生の皆様には、コロナ禍ではありますが益々ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃から一般社団法人長野高等学校金鷄会（「長高金鷄会」）にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。去る6月の総会におきまして、加藤久雄会長のご勇退を受け会長を引き継ぎました。微力ではありますが精一杯努めてまいりますので、会員の皆様方の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。所信の一端を申し上げます。

まず、会員相互の交流・親睦についてです。コロナ禍のなか直接大勢で集うことは困難ですが、Zoomを使っての総会（東京金鷄会）や少人数での集いなどが開かれました。今後はデジタル機器を活用した情報交換や交流に努めてまいります。ことに世代間の交流を進めるため、役員体制の若返りと女性役員の登用を図ってまいります。また、会報「日新鐘」の郵送代、会費納入の手数料、ホームページや会計の管理費が上がってきました。一方、会費納入率と少子化に伴う会員数の減少が見込まれますので財務基盤を強化する工夫をしていきたいと思っております。

次に在校生への支援についてです。従来から在校生（準会員）には学校、PTAと連携して様々な物的、人的な支援活動を行っています。近年、高等学校の学習は「修得」から「探究」に大きくシフトしてきました。母校は文科省

## 会長 山口利幸（高17回）

のSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール。5年間）、続いてNGP（ナガノ・グローバル・プロジェクト。3年間）を通じて探究的学習の実績を積み評価されてきました。その一端を同窓会もしっかり担ってきました。今後は人的支援として、今まで以上に若い同窓生（大学生、院生、准教授世代）のご協力をお願いしたいと思います。高校時代は友や先輩、師と共に自己形成を育む時です。「金鷄ヶ台」が生徒の「心（精神）の故郷」になればと思います。なお、同窓会館の旧教室を個人学習室として生徒に午後7時まで開放しています。

最後は地域社会への貢献です。平成25年の一般社団法人化に伴い社会貢献への期待が大きくなりました。金鷄会館を開放し、質の高い公開講座として知られる教育文化振興会の市民講座が毎年開催されています。高等学校体育連盟事務局や池田満寿夫ギャラリー、旧制中学の資料室などがあります。引き続き地域貢献に努めてまいります。以上、同窓会の課題等について三点にわたり申し上げます。

私には会長の任はとても重いものですが、会員の皆様方のご理解とご協力をいただきながら学年幹事、理事、役員と共に会務を遂行してまいりますので、皆様のご指導ご協力を重ねてお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。



今年も懸垂幕の場所が足りなくなるほど各方面で長高生の活躍が見られました



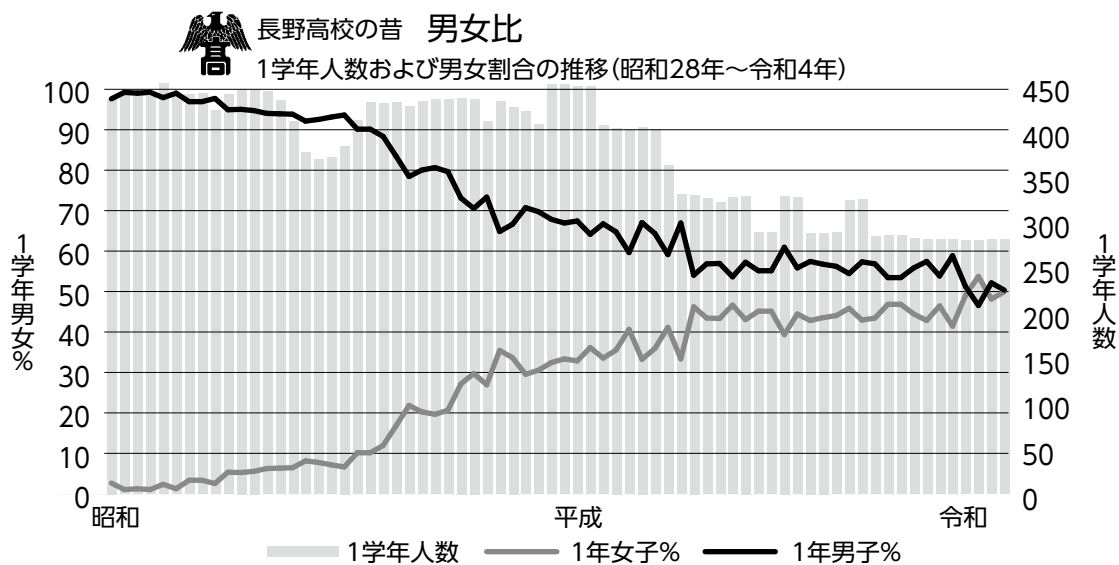
## 本校の今、そしてこれからの展望について

学校長 宮本 隆

日頃より本校の活動にご理解とご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。さて、本年度5月28日(土)に東京金鷄会にて「長野高校の昔と今」と題してお話しさせていただきました。「今」については「学びの変化・ポストコロナ～ICTの充実～」、「昔」については「男女比・進路実績・行事・金鷄祭」の今昔をお伝えしました。その内容をお伝えしたいところですが、紙面の都合もあるので、1点のみ以下に図表を示します。1学年人数と男女比のグラフですが、現在では男女比がほぼ半々と、昔とは大幅に様変わりです。

たいと考えています。

さらに令和4年度入学生からは「単位制」を導入しています。これは生徒の多様な学びを実現するためで、より少人数での講座授業や多様な進路を実現するためであり、令和4年度は「科学の甲子園」や各種オリンピック等、さらに高度な学びを保障することを目指した講座が開設され、学年の枠を超えた受講希望者が少人数の講座で学んでいる姿が実現できています。今後は学年進行で令和6年度には全学年で、より少人数講座等の実現が可能となるように計画が進行する予定です。



様変わりと言えば、「学び」についても、昨年の本稿で「課題研究」・「探究」と「グローバル」・「国際交流」という2本の柱を中心としていることを報告いたしました。来年度は、1～3年の「総合的な探究の時間」を同じ時間に設定して、活動集団について学年・クラス・小集団などに適宜変更して授業展開ができるようにします。例えば経験豊富な3年生が1年生を指導するなど、学年を超えた学びや、担当職員とのゼミ形式授業も可能となり、深い学びが実現し探究が深化し、ひいては生徒の進路実現に対して大きく寄与することも目指していきます。またコロナ禍で小休止している「国際交流」も徐々に復活させていき

さて私事ですが、着任して4年が経過し、本年度末で再任用校長2年の任期が終了いたします。台風19号、新型コロナウイルス感染症への対応など、未曾有の災害に見舞われた任期でしたが、母校の活躍をできるだけ皆様にお届けできますように、学校長として全力で努力したつもりです。この間、同窓の皆さんから、多くの励ましのお言葉やご支援をいただきまして、本当に感謝いたします。本校および同窓の皆様のご発展とご活躍を祈念しております。同窓生として本校に微力ながら貢献できたとすれば身に余る光栄です。ありがとうございました。

# 学年幹事会・同窓会総会開催

コロナ禍で同窓会総会が2年間開催できませんでしたが、今年は感染防止を徹底の上、当番学年を高37回と38回の二学年にお願いし実施しました。懇親会はできなかったものの、久しぶりに対面での実施で大勢の同窓生にご参加いただきました。講演も37回、38回からお二人にそれぞれ楽しくも含蓄のあるお話をさせていただきました。

また、この総会をもって加藤久雄会長(高13回)が退任され、新会長に山口利幸氏(高17回)が就任しました。加藤会長には金鷄会より感謝状と記念品を贈り、感謝の気持ちを表しました。

期 日 令和4年6月25日(土)

場 所 長野市県町 ホテル国際21

出席者 学年幹事会 101名(委任状を含む)

## 学年幹事会

### ◇議事

第1号議案 令和3年度事業報告・決算報告承認・監査報告

第2号議案 令和4年度事業計画・予算案承認

第3号議案 令和4年度理事の選任

### ◇令和3年度事業報告・令和4年度事業計画

1. 会館維持運営事業
  2. 旧制中学校資料収集事業
  3. 高校生の国際理解涵養事業
  4. 市民大学開催事業
  5. 太陽光発電事業
  6. 同窓会事業
    - (1)会報「日新鐘」の刊行
    - (2)支部・同期会・OB会への協力
    - (3)ゴルフコンペ (4)在校生への援助
    - (5)購買 (6)日新館事業 (7)結婚相談室
  7. 総会、理事会、各種会議の開催
- 令和4年度の事業計画は令和3年度に準じる。



退任された加藤久雄前会長

### ◇令和3年度決算・令和4年度予算

○収入の部 (単位:円)

科 目	令和3年度決算	令和4年度予算	備 考
正 会 員 会 費	11,486,000	12,000,000	
準 会 員 会 費	2,250,200	2,290,000	在校生
特 別 会 員 会 費	24,000	20,000	旧教職員
貸 室 料	1,907,887	1,300,000	
市 民 大 学	0	80,000	
太 陽 光 発 電 収 入	1,477,014	1,400,000	
寄 付 金	2,068,000	1,400,000	
雑 収 入	81,848	70,100	利息・購買
貸付金返済収入	800,000	800,000	長野高校PTA
緑の基金取崩収入	0	300,000	
そ の 他	106	400	
前 期 繰 越 金	17,967,794	19,941,209	
合 計	38,062,849	39,601,709	

○支出の部 (単位:円)

科 目	令和3年度決算	令和4年度予算	備 考
会 館 運 営 事 業	5,388,944	5,101,000	給料・通信費・補修費等
旧制中学資料収集事業	11,000	30,000	
国際理解涵養事業	0	210,000	
市民大学事業	0	129,000	
太陽光発電事業	264,777	278,000	
同 窓 会 事 業	7,856,044	8,375,000	会報発行費・教育奨励費等
管 理 費	4,400,827	5,260,000	人件費・光熱水費・火災保険等
退 職 金 積 立	100,048	500,000	
会館設備補修積立	100,000	500,000	
予 備 費	0	50,000	
次 期 繰 越 金	19,941,209	19,168,709	
合 計	38,062,849	39,601,709	

## 同窓会総会

当番回期 高37回・高38回

### ◇学年幹事会・理事会報告

### ◇記念講演会

演 題 なぜ僕はミニシアターの支配人になったのか

講 師 株式会社ポレポレ東中野 代表取締役  
株式会社トリウッド 代表取締役  
大槻貴宏氏(高37回)

演 題 登山の魅力と故郷・信州への想い

講 師 山岳医 医学博士 大城和恵氏(高38回)



高37回・38回生から次期幹事の高39回生へ引き継ぎ



## 母校近況

### ● 弓道班 応援に感謝

顧問 神津明男・八角裕之

今日も弓道場へ向かって歩いていると、「ヨシッ」と気合いの入った生徒たちの声が聞こえてきます。道場内にいる者だけでなく、外で見ている者も一緒になって弓を引いている気がします。弓道場内で練習できる人数は限られているので、外で基本練習したり、見取り稽古したりが多くなりますが、皆協力し合っ  
て練習しています。このように練習してきた仲間の存在が大会での力になっていると感じます。

今年は県高校総体で男女とも団体優勝、また男子個人でも優勝し、徳島県で行われた全国高校総体へ出場することができました。全国高校総体では女子団体がベスト16まで進むことができました。練習会場では、参加した選手たちそれぞれが最後まで自分の最高の射を出そうと取り組んでいました。本番会場でも一射毎にしっかり会（保ち）を持ち、正射必中に努めており、とても誇らしかったです。

今回の全国高校総体出場に際しては多くの先輩方からお祝いや激励のお言葉をいただきました。また、寄付をいただいた方もいらっしゃいました。この場をお借りしてお礼申し上げます。全国高校総体へ出ることによって、多くのOB、OGの方々が応援してくださっていると気付きました。弓道場に訪ねてきてくださった先輩方からは貴重な30年前、40年前のお話もいただきました。きっと生徒達の心に残り、力になっていると思います。

10月の県新人大会では男子団体が優勝し、全国高校選抜大会出場を決めました。女子団体は3位でした。11月の北信越新人大会では女子団体が優勝、男子団体が3位となりました。これからも毎日の練習の積み重ねを大切にしていきたいと思います。今後も長野高校弓道班を温かく見守っていただきたくお願い申し上げます。



長野高校の校舎や弓道場が描かれているテレビアニメ「ツルネ」の第2期作品となる「ツルネ つながりの一射」が2023年1月に始まります。BS11やストーリーミングでの放送・配信予定は京都アニメーションのHPをご覧ください。

※PVは <https://youtu.be/PC2w ETFQDQ> でご覧いただけます。

## 合唱班 夏のコンクールを終えて

班長 2年 岡田奈和実

私たち合唱班は、毎年夏の二つのコンクールを大きな目標として活動しています。新型コロナウイルスの影響で、各種演奏会に限らず、コンクールもマスク着用・距離をとっての演奏がほとんどでした。制約を受けながらも、班員一丸となって日々の練習に取り組んできました。

今年7月に開催されたNHK全国学校音楽コンクール（Nコン）長野県大会で金賞を受賞し、本校としては11年ぶりに県代表に選ばれました。また、8月には第64回長野県合唱コンクールが行われ、高等学校部門Aグループで金賞・県代表、加えて小学校部門から大学職場一般部門を通しての総合1位である全日本合唱連盟理事長賞を受賞することができました。

Nコンの県大会は感染対策のため表彰式が行われず、帰りのバスの中で審査結果を待ちました。連絡が来た時の班員たちの嬉しそうな表情が目に焼き付いています。たくさんの温かい応援をいただきながら、上位大会に向け、いつもと変わらず、全員で意見を出し合っ

て詩の解釈や表現を追求し、自分たちらしく、さらに良い演奏ができるよう練習を重ねました。

その後、9月のNコン関東甲信越ブロック大会では銅賞を、10月の第75回中部合唱コンクールでは金賞を受賞しました。どちらも全国の舞台での演奏は叶いませんでしたが、レベルの高い演奏が集まる上位大会でこのような賞を受賞できたこと、何よりも自分たちが納得できる演奏ができたことを嬉しく思います。今回の経験を糧にさらに努力を重ねて参ります。

音楽は届けるもの。演奏に込められた想いを、息遣いを、同じ空間にいる皆で共有できる喜びを改めて実感する大会期間でもありました。来年の6月18日には、ホクト文化ホールにて第50回定期演奏会を開催いたします。多くの皆さまと私たちの音楽を共有できたら幸いです。これからも応援よろしく願いいたします。





## ● かるた班の活動について

班長 2年 小柳結子



北信越大会予選

私たち、かるた班は現在1年生8名、2年生8名の計16名で活動しています。班員の多くが高校に入学してからかるたを始めたということもあり、日々の練習でお互いに教え合いながら楽しく班活動を行っています。

春の長野県高等学校かるた大会団体戦では、昨年までの三連覇に続くよう、優勝を目指していましたが、3位という結果に終わり、残念ながら全国大会への切符を逃しました。

7月には全国高等学校かるた選手権大会が滋賀県大津市で行われ、個人戦に多くの班員が出場しました。この大会では、全国から集まった2000名を超える参加者が、A級(4段以上)からE級(無段)まで実力別にいくつかのグループに分かれて試合をします。本校では、B級の部で3年の徳竹さんが3位入賞、D級の部で3年筒井さんが準優勝、2年の田淵さんが3位入賞、E級の部で2年瀧沢さんが優勝するなど、多くの好成績を残すことができました。

3年生が引退し、代替わりして最初の団体戦の大会である長野県高等学校新人

かるた大会が10月に行われました。団体戦は、通常、選手同士の声掛けができるのが醍醐味でもあるのですが、コロナ感染対策で声掛けが禁止されるなど、制限の多い中での試合となりました。また、コロナの影響で出場できない選手がいる学校も多く、各校とも、本来の力を発揮しにくい状況でもありました。そのよ

うな中ではありましたが、本校は予選リーグを1位で通過し、準決勝では飯田高校に勝って春の県大会の雪辱を果たしました。決勝戦では、勢いに乗っている松本深志高校に3-2で辛勝し、優勝という結果を得ることができました。

今後は、来年の春に予定されている県大会での優勝、更には全国大会に通用する力をつけることを目標に、新人戦の優勝という結果に驕ることなく、日々の積み重ねを大切に、仲間たちと精進し互いを高め合っていきたいと思います。



「とうきょう総文2022」小倉百人一首かるた部門

● ソフトテニス班

顧問 井手俊毅

ソフトテニス班は男子18名、女子7名の計25名、テニスコートで活動している。新しい代になってから皆熱心に練習に打ち込んだ成果が現れ始め、先日行われた選抜大会の北信予選では団体戦準優勝。個人戦では優勝をはじめとして上位入賞者を多数生んだ。

硬式のテニスと趣が異なり、のどかな打ち合いのイメージを持つ人もいるかもしれないが、実のところ全身全霊を込めないと打ち合いにすらならないテニスボールを打っているのである。毎回毎回足を動かして、いいポジションで腰を低くして打たないと球は言うことを聞いてくれずネットかアウトになる。そして疲れてくるとこの基本動作がおろそかになる。意外にハードなスポーツなのだ。

この競技のさらなる特徴としては、ペア戦が主であるということが挙げられる。この世界で「個人戦」という名で呼ばれるのはペアどうしの戦いである。ひとりが突出してうまくても、もうひとりもある程度の実力でないとトーナメントの上に行くことはむずかしい。二人がかみ合わないときもあるが、かみ合ったときに発揮される力は個々の力の単純な足



し算をはるかに上回るのが面白い。

メンタルの要素も大きく、弱気な球ばかりでは相手に拾われてしまう。そうかと言って強気一辺倒でも、ボールはネットかアウトになってしまう。駆け引きを通して相手のウラをかく神経戦も魅力のひとつだ。顧問を長いことやっている、打球ひとつでその班員が何を考えているのかその精神状態までわかってしまう。私の居室のある3階からはテニスコートが見える。選手の顔は見えなくても、球筋で誰の打球か大体当たる。

今日も私は、彼らの打球のささやく声を聴くためにテニスコートに赴くのである。

● NGP活動報告 ～さらなる進化を目指して～

NGP推進室主任 海沼孝典

日頃より本校の教育活動へのご支援に感謝申し上げます。今年度のNGP活動も本格化しています。最近では、2年生は10月～11月に台湾とのオンライン交流、11月の九州研修旅行では立命館アジア太平洋大学 (APU) におい

て国際学生との交流を行い、異文化理解やコミュニケーション能力の向上を目指しました。1年生は11月にFW (フィールドワーク) を実施し、自分たちで設定した研究テーマについて行政機関・企業等を訪問し、インタビューす



る中で研究を深めました。

現在のNGP活動の課題は昨年度までの文部科学省の指定事業終了後のさらなる進化です。SGHの時代からの8年間の指定事業を通して、本校における探究活動は定着しました。一方で、本校の生徒は学習の目的が目先の大学入試に向きがちな面があります。現在の社会は変化のスピード

が早く、複雑化する中で、生徒自らが問いを設定し、その解決方法を考える探究活動の充実が求められています。本校においても、生徒が自己実現を達成するために教科の学習、生徒会活動、班活動に加えてNGP活動を通して中の世界の自分自身と外の世界である社会や学問と向き合います。そして、自ら課題を設定し、「定められた正解」のない解決方法を探り、生徒が自ら踏み出すことで世界が変わっていくことを体験することで学ぶ意欲が高まり、進路意識の向上にもつながると考えます。上記のような探究活動の意義をふまえ、本校のNGP事業のさらなる進化を目指します。



APU国際学生との交流

具体的には、現在は週ごとに学年別に行っている総合的な探究の時間について、来年度からは全校が同一の時間帯に行い、全職員で指導する体制に変更するための準備を進めております。全校一斉に行うことで、テーマごとに生徒が集まり、学年を超えた学びを実践し、職員がきめ細やかに指導する体制を目指します。また、進路希望に応じた課題設定や実験を伴う理科学的な研究の充実など、生徒の多様な探究のニーズに対応したいと考えております。

今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



台湾とのオンライン交流



## 支部・同期会・OB会だより

### 高37回 令和4年度同窓会総会



高37回

6月25日(土) 令和4年度同窓会総会が長野市のホテル国際21で開催されました。思い起こせば3年前、私たち高37回生は同窓会総会の当番幹事を高36回生の先輩から引き継ぎましたが、新型コロナウイルスの感染状況から2年続きで総会は中止となり、今回高38回生の皆様と共によく幹事の大役を務めることができました。

総会後の記念講演会では、多くの新人監督の作品を発掘、上映している「下北沢トリウッド」と、ドキュメンタリー映画の聖地ともいわれる「ポレポレ東中野」の2つの映画館の代表として、また映画プロデューサーとしても活躍している大槻貴宏さんが高37回生の講師として登壇しました。信濃毎日新聞のコラムも執筆している大槻さんの「なぜ僕はミニシアターの支配人になったのか」と題した講演は、映画のみならず

今後の動画配信への展開などにも触れ、活発な質疑応答も交え非常に意義な時間となりました。

コロナ禍のため、残念ながら懇親会の開催は今回も見送りとなり、総会後の同期の集いも少人数の会合という形で行いました。当初令和2年度の総会に合わせ開催予定となっていた、高37回生卒業35周年記念同期会は延期を余儀なくされていますが、高校を卒業して40年の大きな区切りを迎える頃に開催すべく、準備を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが総会の開催にあたり、足掛け2年にわたりサポートいただいた同窓会事務局の桃林先生、原先生、池田さん、そして多忙な中運営に携わった高37回・高38回の皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。(山田雅之)

### 高38回 同窓会総会当番・懇親会開催奮闘記

過日6月25日(土)、金鷄会同窓会総会が3年振りに開催された。コロナ禍のため2年間、開催が見送られたのである。本年の総会開催にあたり役員の方々が出した答えが「高37回・高38回の合同開催」である。



高38回





高38回

高37回先輩方と役割分担しながらの合同開催は史上初であろう。コロナ禍の中での正に「おっかなびっくり」の開催である。当然のことながら参加者全体の懇親会は中止。しかし高38回生の懇親会は開催することが決定した。

案の定、出席者集めには大いに苦労した。お約束の葉書による同窓会告知もできない。級友に直接電話をかけたり、SNSグループを作り仲間に地道に出席をお願いした。出席してほしいけど無理に出ることは促せない。それがすごく歯がゆかった。

当日、高38回代表として講演していただいた山岳医の大城和恵さんには助けられた。彼女の全国的な知名度のお蔭で講演会の会場は高校同窓生で一杯になった。彼女の硬軟取り混ぜた興味深い話は、聴衆の心をギュッと捕らえた。講演会司会の幹事・渡辺智子さん(産婦人科医)は大城さんの幼馴染。心のこもった司会、良かったな。

高38回生の懇親会では、幹事の伊藤永嗣君(元野球

部)が東京から駆け付け司会進行。当時の担任の藤本先生、宮下先生にもお越しいただき、静かにそして大いに盛り上がった。

合同開催した高37回先輩方には様々お世話になりました。心より感謝申し上げます。

忙しい中、名古屋から遠路はるばる参加してくれた高38回の級友が「出席して良かったよ!」と言ってくれた時、すべての疲れが吹っ飛んだ。参加していただいた同級生はじめ参加された皆様に心から感謝申し上げます。

2026年、卒業40周年の同窓会を大々的にやりたいと思う今日この頃である。(幹事 鈴木隆治)

### 近畿長高金鶏会 総会・懇親会

9月17日(土)17時から令和4年度の総会・懇親会を開催しました。

場所は梅田ニューミュンヘン曾根崎店。オープンスペースで、一般客と隣合わせでにぎわいのある中で行いました。総会では風間幹事(高31回)から事業計画、会計報告があり、全員の拍手で承認されました。

懇親会は、高坂さん(高13回)の乾杯の音頭で始まりしました。総勢13人。上は90歳から下は54歳までと幅広く参集。コロナ下とはいえ、皆さん元気で、よく飲み、よく食べ、よく喋っていました。周りもそのような人々で満席。すこぶる景気が良い。ほかの



近畿長高金鶏会





お客さんもいるので大声は出さず、続きのテーブル3つぐらいでお喋りしました。居酒屋でじっくり歓談するという感じで、あっという間に2時間は過ぎました。

今年、当会は創立60周年。ちなみに母校は123周年。当会も60周年の記念資料（電子版）を発行しました。母校の100年史と57回甲子園選抜のサイン入り記念ボールをテーブルに置き、皆で回し読み、硬球も回し手触りを楽しみ、往時をしのびました。甲子園選抜57回は滝沢さん（高39回）が高校1年生の時、同期生の3名がボールに名を刻んでいるとのことでした。

束の間の2時間でしたが、ぼくら13人高校生に若返った感じでした。再び会うことを約束して散会となりました。往く夏、来る秋を思わせる夜風が誠に心地よい。  
(高23回 野池 徹)

## 高52回 卒業20周年記念同窓会

高52回の卒業20周年記念同窓会は例に漏れずコロナ禍の煽りを受け2年延期していました。卒業から22年、我々も40歳を過ぎ健康診断の結果を以前より気にする年齢になり、当時は若いほうでちょうど今の私たちくらいの年齢だった先生方も同じように月日を重ねておられる中、健康で集まれるうちに一度開催しておきたく8月13日(土)に決行致しました。

会場側の感染対策など、コロナ禍以前の準備や進行が参考にできない中手探りで開催でしたが、参加者の皆様はじめ関係各所に最大限ご協力いただき、

無事大盛況を持って終宴することができました。やって良かったという声を先生方や同窓生からも沢山いただき、次回はコロナの枷が取れた中で多くの方が参加できるよう改めて節目の開催を計画したいと思います。また、生憎当日参加できなかった多くの方々からご寄付をいただき感謝いたします。参加者の分と合わせ金鷄会に託し、後輩方のために使っていただきたいと思います。  
(幹事 塚尾早希)

写真は次頁

## 管弦楽班OB・OG会

3年ぶりに開催しました！

令和元年（2019年）夏に開催以後、コロナ禍のために延期に続く延期となっていた、管弦楽班OB・OG会を3年ぶりに8月14日(日)、開催しました。

感染対策のために、手指消毒剤、非接触式体温計にCO<sub>2</sub>モニターを用意して。

演奏は互いに距離を空けるようにして、さらに今年は管楽器の演奏なしで、弦楽合奏だけで、と例年とは異なる形で行われました。

こうした中、現役生によるジョン・ラターの「弦楽のための組曲」より第1楽章の演奏、続いて管弦楽班の創班以来の永遠の指導者、山本昇先生指揮で現役生、OB・OG合同演奏でマスカーニの「カバレリアルスティカーナ」と山本先生編曲の校歌の演奏を行いました。

そのあとは有志による弦楽四重奏ドボルザークのアメリカに、同じ有志でバッハのフーガの技法から第1曲、そして我が班出身で日本を代表するヴァイオリニストの一人、桐山建志先生（高38回）のバッハ無伴奏ヴァイオリンパルティータ第3番からガヴォットを聴き終了です。今年は懇親会は無く2時間余りの短いものでしたが、現役の皆さんとともに素敵な音楽を楽しんだ至福の時間でした。参加できなかった皆様にはきっと羨ましいことでしょう！来年も開催予定です。乞うご期待。

(高33回 齋藤文洋)

写真は次頁







## 市民大学事業

### 古代史講座

公開  
講座

主催：東京大学史料編纂所(担当：古代史料部門「天皇家・公家の「知」の体系化としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクト)  
共催：科学研究費・基盤研究(B)「敦煌書儀・六朝尺牘文献の古代日本への受容実態の展開」  
協力：一般社団法人長野教育文化振興会、一般社団法人長野高等学校金鶏会  
後援：信州大学教育学部、長野県長野高等学校

於 金鶏会館 大講義室

### 古典から読み解く歴史学—「いま明かされる古代49&中世・近世」

#### 第1回 10月22日(土)〔第320回講演〕

放送大学 教養学部 教授・東京大学名誉教授 近藤 成一 先生  
「中野能成と北条氏」

#### 第2回 10月29日(土)〔第321回講演〕

信州大学 学術研究院 教育学系 教授 西 一夫 先生  
「萬葉集の雅と俗」—巻16の歌の世界—

#### 第3回 11月5日(土)〔第322回講演〕

九度山・真田ミュージアム名誉館長  
大阪城天守閣前館長 北川 央 先生  
「西国巡礼の歴史と善光寺信仰」

#### 第4回 11月12日(土)〔第323回講演〕

九州大学 基幹教育院 人文社会科学部門 教授 福田 千鶴 先生  
「松平忠輝とその生母河村茶阿」  
—長野市立博物館に寄託されている花井家文書を中心に—

#### 第5回 11月26日(土)〔第324回講演〕

京都大学名誉教授 西山 良平 先生  
「新発見！弘徽殿・登華殿などからみた平安宮内裏」

#### 第6回 1月21日(土)〔第325回講演〕

一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター  
調査部 調査第二課 課長補佐 柳澤 亮 先生  
「考古学で探る！武田信玄の築城『幻の長沼城』」

#### 第7回 1月28日(土)〔第326回講演〕

東京大学 史料編纂所 古代史料部門 教授 田島 公 先生  
「近衛家伝来史料から読み直す古代の地域史」  
—15年間の大型科学研究費の成果の一端—

#### 池田満寿夫ギャラリー

金鶏会館では池田満寿夫(高4回)の作品を50点  
余り、常設展示しております。  
ぜひ、ご覧にお越しください。  
(平日14時~17時、それ以外の時間は予めご連絡ください。)



### 結婚相談室のご案内

1. 相談日時 原則として水曜日のみ 10時から16時まで
2. 相談員 長野高校の同窓生である女性相談員が務めております。  
ご本人の来室が難しい場合、ご家族様が代わりに相談にお見えになっても結構です。  
ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。  
お問い合わせ先 TEL 026-235-3822(平日14時~19時)  
E-mail dousoukai@kinshi.org http://www.kinshi.org

木曜日から  
水曜日に  
変わりました!



### 回期別対抗ゴルフ・コンペ

同窓会主催のゴルフコンペが9月25日(日)長野カントリークラブにおいて、  
90名参加のもと新ペリア方式で開催されました。成績は下記の通りです。

- 個人優勝 田原 敏明(高19) グロス85 ネット70.6
- 個人2位 植松 悦夫(高34) グロス91 ネット71.8
- 個人3位 小島 隆史(高34) グロス80 ネット72.8
- 団体優勝 高34(小島隆史・服部俊直・植松悦夫)
- 団体準優勝 高27(西山哲司・勝山信久・武舎和博)
- 団体準優勝 高29(中村正文・夏目裕・山岸浩二)
- 団体4位(高20)／団体5位(高36)／団体6位(高11)
- 団体7位(高19)／団体8位(高25)／団体9位(高37)
- 団体10位(高22)／団体11位(高23)／団体12位(高24)



個人優勝の  
田原敏明さん(左)



団体優勝  
高34回の皆さん

## 金鷄会資料室のご案内

金鷄会館（旧校舎）一階には旧制中学時代からの資料や写真を展示した資料室があります。どんな様子なのか、簡単にご紹介します。



まず、入ると正面に「歴史点描」のコーナーがあり、旧制中学時代の品が並んでいます①②。北の壁面には、校訓の額(写真)と

本校の略歴が③、西壁面には「本校の足跡」として年表で本校の歴史がたどれます④。南、東の壁面には「回顧百年」⑤、「青春邂逅」、中央には「金鷄祭」⑥と題したコーナーがあり、数々の写真などが展示されています。同窓生の方々にとって自身の思い出と重なる写真や品々があるのではないのでしょうか。

また、資料室外の廊下には応援団の物品も展示されています⑦。応援団はなくなってしまいましたが、応援練習は形を変え現在に受け継がれています。

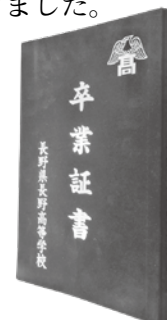
長野高校の歴史を彩る資料や写真などをご提供いただける方は同窓会事務局までお知らせください。





**ご寄付をいただきました。**

- ◇高13回 加藤久雄前会長より会長退任にあたり、10万円のご寄付をいただきました。
- ◇高3回 高3回生東京同期会の皆様より、会を閉じるにあたり5万780円のご寄付をいただきました。
- ◇高5回 長野北高二八会の皆様より、会の解散に伴い7万9千円のご寄付をいただきました。  
同窓生・現役生の役に立つよう使わせていただきます。
- ◇高52回 卒業20周年同窓会の皆様より、10万円のご寄付をいただきました。  
今年度卒業生の卒業証書ファイル購入資金として使わせていただきます。
- ◇匿名の同窓生の方から、昨年に引き続いて80万円のご寄付をいただきました。  
120周年記念事業の「金鶏太陽光」奨学金に上乘せする形で使わせていただきます。



ありがとうございました。

**同窓生から3年生への贈り物**

長野高校現役生徒への教育支援としていただいている同窓生のご寄付から、写真のような鉛筆削りを、受験を控えた3年生に贈っています（今年で3年目）。共通テストや個別入試で使用する鉛筆を削るために利用してもらおうとの思いからです。

いよいよ受験本番が近づいてきました。3年生には長野高校で蓄えた力を十分に発揮してもらえようエールを送ります。



**歴代弓道班の皆様へ「長野高校弓道班の歩み」作成のお知らせ**

今年のインターハイ団体男女アベック出場の快挙を記念して「長野高校弓道班の歩み」を作成いたします。詳細は、<https://naganokoukoukyudohan.blogspot.com> をご覧ください。こちらのブログには、現役生の活躍の状況や歴代班員の思い出等が詳しく紹介されています。今後、班員OB・OGの皆様からも投稿を募集し、内容を充実させていきます。



CD版 1,000円、冊子版 2,000円での作成、配布の予定です。  
お問い合わせは、事務局の32回生柳澤幸弥までどうぞ。  
電話：090-2439-4067 E-mail：yukiyanagi59@yahoo.co.jp



**長野高校吹奏楽班OB・OG  
第54回定期演奏会**

日時 令和5年3月25日（土）  
13:30 開場 / 14:00 開演  
会場 ホクト文化ホール 中ホール 入場無料  
曲目 G.ビゼー（編曲：Herman Finck） / 「アルルの女」第二組曲より、  
Ⅲメヌエット Ⅳファランドール  
春の獵犬 / A.リード ほか

皆様のご来場、また多くの吹奏楽班OB・OGの皆さんのご参加を心よりお待ちしております。  
公式サイトURL <https://nhb-obog.net/>

**令和4年度同窓会費(3,000円)のご送金をお願いいたします。**

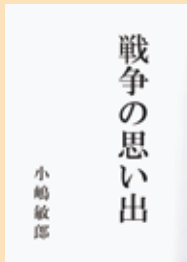
今年度の会費未納の方に振込用紙を同封いたしました。ご協力をお願いいたします。

**送金方法**

- ①同封の振込用紙を使う  
振込用紙はコンビニ・郵便局どちらでも利用できます。
- ②用紙を使わずネットバンキングやATMで銀行への振込み  
下記の口座へお願いいたします。なお、その際はお名前とともに卒業期または振込用紙に記載のお客様番号を入力してください（同姓同名さらに同字の方もおいでになるので）。

八十二銀行 長野北支店 普通 133722  
一般社団法人長野高等学校金鶏会  
長野信用金庫 城北支店 普通 0031958  
一般社団法人長野高等学校金鶏会

## 寄贈図書



**戦争の思い出**  
著者 小嶋敏郎氏(高6回)



**公共性の空間構造と  
高校教育改革**  
—札幌市立高校の教育改革と公共圏の形成—  
著者 小出達夫氏(高9回)



**モンゴル:人と教育改革**  
—社会主義から市場経済社会への  
移行期の証言—  
著者 小出達夫氏(高9回)



**医療・福祉の総合情報誌  
JAPAN MEDICAL SOCIETY  
2022年初夏号～12月号**  
野村元久氏(高10回)寄贈



**唱歌「蛍の光」と帝国日本**  
著者 大日方純夫氏(高21回)



**株式会社 FMしまじり  
10周年記念誌**  
小山信二氏(高22回)寄贈



**魂に触れて還れ**  
著者 小林雅俊氏(高23回)



**信州に伝わる 閑流  
秘伝書 最上流免許状**  
著者 小林博隆氏(高25回)



**子どもの登校を支援する学校教育システム  
不登校をのりこえる子どもと教師の関係づくり**  
著者 岸田幸弘氏(高29回)



**ナーシング・グラフィカ 小児看護学③  
小児の疾患と看護**  
北澤憲孝氏(高38回)共著



ホームページトップ画面

## ホームページをリニューアルしました

トップメニューからは、お知らせのほか日新鐘のバックナンバー、住所変更、金鶏会ブログなどの各情報にアクセスできます。パソコン・タブレット用画面とスマートフォン用画面が自動で切り替わり見やすくもなっています。

同窓生の皆様の交流の場となるよう内容の充実に努めてまいります。ご覧になっての感想やご意見をお寄せいただければ幸いです。同窓会やOB会、同窓生の活躍などに関する情報を掲載していきたいと思っておりますので、皆様がお持ちの情報をお知らせください。お待ちしております。よろしくお願いいたします。

## 事務局便り

- ◇6月発行の「日新鐘」第81号に紹介された「金鶏祭七十年の軌跡」を同窓会にて復刻しました。この冊子は平成30年の金鶏祭70回を記念して、当時の金鶏祭推進委員長である倉島啓斗さん(高71回)が中心に作成されたものです。「日新鐘」81号に校長先生が取り上げたことで、同窓生の方から問い合わせがあったため、倉島さんの了解のもと復刻版を作成しました。ご希望の方は事務局までご連絡ください。
- ◇金鶏会館前の松やトウヒが伸び放題で、道路側から旧校舎がほとんど見えない状態です。旧校舎の趣は前庭とともに醸し出されているので、今年度中に剪定して綺麗にする予定です。
- ◇令和5年度同窓会総会は、6月24日(土)ホテル国際21において開催予定です。当番回期は高39回・高51回の皆様です。よろしくお願いいたします。

長野県長野高等学校  
金鶏祭七十年の軌跡